

# 兵庫かけ橋

第 64 号

二〇二四(令和六)年

(発行者)

神戸市中央区下山手通

八丁目一番一号

兵庫教区教務所内

電話番号 〇七八・三四・五九四九

兵庫教区門徒推進員

連絡協議会

会長 前田 正英

## 令和6年度総会を

### 終えてのこれから

兵庫教区門徒推進員  
連絡協議会会長

前田 正英



はじめにこの度、会長就任後、初めての「兵庫かけ橋」発刊にあたり、おかげで七名の編集委員会を立ち上げる事ができました。今後、会員皆様のご協力をお願い申し上げます。私、はからずも西田前会長のあとを継いで二期目になりましたが、新たにその責任の重さを感じるものでございます。

早朝から曇り空で気温もやや低めな天気。胸をなでおろす総

会の朝でした。前日までは猛暑日が続く、そして熱中症で病院に運ばれるというニュースを聞いて、総会に参加していただけたらどうかと案じていました。皆様方の総会への思いと優しさに会場参加三十八名、リモート参加九名、令和六年度総会と第七十三回研修会が盛会に開催出来ましたこと深く感謝申し上げます。次第でございます。

総会では、昨年の事業報告、続いて役員改選につきまして、は、会長以下新役員のご報告、併せて新たな年の事業計画並びに予算を可決いただきましたこと、その意を深く謝するものでございます。

約二年間、かけ橋の発刊が滞っていましたことお詫び申し上げます。この上は皆様方のな

お一層の温かいご支援とご鞭撻をいただきながら役員一同協力のもと明るく楽しい門推協として、よりよき方向に邁進してまいりたいと思うものでございます。今後とも会員皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第七十三回研修会では、御講師に赤穂北組専稱寺の住職赤松普宣師をお迎えして、ご法話をいただきました。

先生には、小中学校教員のご経歴の持ち主でもあられます。そして、はじめに「お念仏を称えておられますか」と問いかけられました。大きな声でなくてわが耳に聞こえるぐらいの声を出して、日頃の感謝の念を大切にすべきであるご法話を頂きました。

門推である事の自覚を持ち、よろこび、苦しみをともにすることを大切な指針とし、本会運営には会員皆様が抱えている課題を相互に乗り越えていく事をめざしたいと思います。

## 聞 佛 所 説

「おばあちゃん、またお正月に帰って来るから体に気をつけてね」私が大好きだった祖母と交わした最後の言葉です。私は家庭の事情で三歳の時からずっと祖母に育てられました。住職の父は、法務などの関係で家がないことが多く、運動会などの行事はほとんど祖母が来てくれていました。私はそれが嫌で仕方ありませんでした。周りの友達、若くて綺麗なお母さんが来ているのに、自分のところだけ歳を取った祖母が来ることに恥ずかしさを感じていたのかもしれない。◆ある日、祖母と喧嘩をした時に「おばあちゃんなんか、おらんかったら良かったのに」そんなひどい言葉を言ってしまった時があります。しかし祖母は「周りの人からあの子はお母さんがおらんから、あんな子に育った。そんな子に育ってほしくないから口うるさく言うのよ」と言ってくれました。◆阿弥陀さまは、この私が背を向けようと「決して見捨てない(撰取不捨)」と誓われた仏さまです。その時の祖母の一言は、まさに阿弥陀さまと同じ気持ちだったのかもしれない。◆「おばあちゃん、ありがとう」

安間慶哉

## 「門徒推進員という生き方」を通して

兵庫教区教務所長 松本 隆英



門徒推進員の皆さまには、平素より教区内の諸活動推進にご協力いただいておりますことに御礼申し上げます。

門徒推進員連絡協議会会報「かけ橋」の創刊は平成四年のことです。この度、事務所に綴じてある創刊号から最新号までをざっと読み返しました。会員相互の情報交換、活動報告、意見発表、そして、新会員紹介コーナーでは中央教修での決意表明が書かれていました。門徒推進員の皆さんが、お寺の活性化をはじめ、み教えを伝える努力を今日までしてきてくださったことに頭の下がる思いがいたしました。

私が住職を務めております滋賀のお寺には、かつて六名の門徒推進員の方がおられました。中央教修を終えられた当初は「がんばって活

動しなければ」との思いで知り合いの方に法座への参拝を呼び掛けたり、子ども会のお世話や境内の草刈りなどもしていただきました。しかし、ある門徒推進員さんは高齢化とともに活動ができなくなり「門徒推進員といっても名ばかりで返上しなければあきませんわ」と話しておられたことを覚えています。そんなときに、亡き前坊守は「法座でお聴聞する姿を見せていただいているだけでいいんですよ」と話していたことを覚えております。

昨年、門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため「門徒推進員という生き方」(理念)が作成されました。

その中で「門徒推進員は『資格ではなく自覚』といわれてきました。しかし『自覚』といいながら何らかの活動をしなければならぬという意識を与えてきてしまいました。(中略)『活動』は尊いことですが、必ずしも『活動』が伴わなければならぬわけではありません。お念仏申させていただくその姿が周りの人々に伝わるこそこそ門徒推進としての生き方として大切な役割であります」と示されています。

前坊守のことばと重なりました。

昨年「協議会」は結成三十五周年を迎えました。高齢化だけでなく、コロナ禍は寺院活動や門徒推進員活動に大きな影響があったように思います。また、近年の研修会などでは連研を終えても中央教修に進まれる方が少なくなっているという声もよく聞きます。そんな中、来る四十周年に向け「門徒推進員という生き方」を支えに、さらに賑やかになった協議会の様子を「かけ橋」でお届けできればと思っております。そして、次代を担う新会員の紹介コーナーが充実できることを願っております。

「かけ橋」編集委員の皆さま、引き続きよろしく願いたします。

## 門徒推進員への思い

兵庫教区教務所元職員 長尾 真

門徒推進員の方々とご縁をいただいたのは、今から十六・十七年程前になろうかと思えます。門徒推進員連絡協議会を担当させていただく中で、私自身多くのお育てをいただきました。総会・研修会

から始まる年度行事、第三連区の研修会、また教区内での持ち回りの研修会、二年に一度の連研修了者大会(当時は京都の本願寺会館でのスタッフとしてお手伝い)、また、神戸別院の諸行事へのご協力、多くの皆様と共に汗をかき、語り合い、共に泣き笑ったことを昨日の日のように思い出します。とりわけ、第三連区の研修会、近畿の門徒推進員さんとの有意義な情報交換や夕食懇親会での和やかな交流、各教区のアトラクション(兵庫教区は主に男女混合のコーラス)など懐かしく楽しい思い出はつきません。

門徒推進員の皆様にお育てをいただく中、学ばせていただいたことの一つに連研への思いがあります。特に兵庫教区は、全国に先駆けて連研をスタートさせた教区であり、熱心な活動が現在も継続されています。教区においても連研の研修会を通して多くの学びとお育てをいただきました。連研とは、「お互いが教化者と受講者という関係ではなく、共に学び合い、育て合うのが連研の真の姿である」との言葉に門徒推進員養成の心を学びま

した。

また、もう一つの学びとして、門徒推進員は「資格」ではなく「自覚」であるという言葉であります。資格云々の思いがどうではなく、まさに自覚の心に立ち、活動をしていくことが大切であるということとです。よく当時の会長さんに教訓のようにご教授いただいたことを懐かしく思い出しました。「資格」ではなく「自覚」との意識は、門徒推進員だけにとどまらず、私自身も受け止めていかねばならない思いであると感じました。

私の若い時の話に戻りますが、京都の西本願寺でお経の称え方や作法などを勉強させていただいていた時の話です。ある講義の時、その先生がおっしゃいました。それは、「あなたがたに、あなた達の何倍もの年上の先輩の方が、何故あなたにお辞儀をされているのかわかりますか？」との問いでした。その答えに、「それは、あなた達が偉いのではなく、袈裟衣（けさ・ころも）が尊いのです、そのことを決して忘れないよう僧侶としての本分を守り、頑張ってください」との言葉でした。私なりに

門徒推進員の「自覚」との思いに重なり合うことでした。

最後になりますが、門徒推進員の皆様には多くのお育てをいただき、共に貴重な時間を過ごさせていただいたこと、心より感謝申し上げます。多くの学びをこれから糧として、共にお念仏相続の歩みを進めてまいりたいと思います。門徒推進員の皆様への「思い」とさせていただきます。

### 慶讃法要ボランティアに参加して

姫路中組 筈井 公美子

私は門徒推進員になって四年になります。コロナ禍になる最後の三泊四日の中央研修に参加して、全国の方々と出会うことが出来ました。昨年の四月二十日、二十一日第七回全国門徒推進員の集い「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が本願寺であり姫路中組から三名参加しました。また、同年五月十一日は安楽寺、皆光寺、西徳寺の三ヶ寺で本願寺の法要はもちろんですが、親鸞聖人が誕生された日野誕生院と法界

寺を参拝しました。幼少より父と大谷本廟へ墓参りと芝居や京都見物には出かけましたが、ゆかりの地は訪れたこともなく、すべてが目新しく案内に感謝しています。

二〇二四年五月十六日から十九日神戸別院でも「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が行われるに当たりボランティア募集がありました。こんな機会はないということで、姫路中組から五名参加しました。事前のボランティア説明会で役割分担がなされ、過去に大手鐵鋼で秘書業務をしていましたので接待係を希望しました。当日の朝、神戸湊組の中西様から三階を担当して欲しいと言われ、私と同じ組の奥野さんはうれしさを隠せず「よろしいのでしょうか？」とお伺いしました。

十六日は特別室に東儀秀樹様、会議室に釈徹宗先生、香房室（四日間）は特命布教講師の野瀬妙恵様でした。十七日は上野誠氏で講演テーマ「日本人と聖徳太子」。十八日は弁護士三輪記子様と釈徹宗先生の対談、十九日は月亭方正氏が講演されました。この方々が来られた時にはお茶（熱い方か

冷茶か）とおしほりを出すことと終了時はコーヒーとおしほりを出すように指示されていました。

十六日、十五時から私は一人でしたが、東儀先生に大阪や姫路キヤスパホールの演奏を聞かせて頂いた事やCDを購入し、聞いていることもお伝えしました。お帰りの際「お疲れ様でした。ご苦労様でした」と声をかけると、東儀様が手を出されたので驚きながら握手をして頂きました。十七日は皆様に配布する袋詰めのため、集合時より一時間早く参りました。この日、二階の接待係がいらないと言われ奥野さんが即座に接客に



慶讃法要 お出迎え



かれ慌ただしい日となりました。十八日同じ組の中谷様がコーラス出演のため、対談終了後、奥野さん一人で対応され、十九日はホルの参拝者案内でした。私と同じ組の高部さん他のボランティアで、終了後椅子の片付けや忘れ物などのチェックをしました。

全員壇上で記念撮影を行い行事が終了しました。神戸別院での初めてのボランティアに参加して、大勢の方々にお会い出来ましたことに感謝申し上げます。

### 神戸別院慶讃法要に ボランティアとして参加して

網干組 田淵 聡子

別院の法要に四日間ボランティアとして参加させて頂いた感想を「兵庫かけ橋」に投稿して欲しいと、かけ橋編集部代表委員さんから、お電話を頂きました。ええ！と躊躇致しましたが、四年前に幹事に、推薦して頂いたご恩をお返しする時かと、拙い文ですがと、お断りしてお受けいたしました。

網干組は、法要の気運高揚を目的にと、本山から法要記念式章が

発売された時、早々に十八領買い求め、行事ごとにつけさせて頂いています。四日間の法要の期間、延べ人数二十二名が参加させて頂きました。なお、十七日の網干組の団体参拝には、八名の門徒推進員が参拝しました。網干組は送迎のボランティアをさせて頂きました。

紅い法被とお揃いの記念式章で、皆さんようこそ、ようこそと、笑顔で精いっぱい、お迎えし、お見送り致しました。毎日六〇〇名近くのご参拝で、尊いことと、感銘致しました。なかに顔見知りのご住職様や、ご同行をお迎えし驚喜してハグしたりと楽しい毎日でした。また、講演の間は、翌日のご参拝の六〇〇名の方への資料の袋詰めもお手伝いさせて頂き別院の職員様のご苦勞を、しのばせて頂きました。そして四日間の記念講演も毎日感動でした。

一日目の東儀秀樹さんの演奏は、素晴らしくて鳥肌がたちました。二日目の上野誠さんの酒脱で興味深いお話も面白く三日目の三輪記子さんと釈徹宗さんの対談での、浄土宗のお父様のお話に、涙しました。四日目の、月亭方正さんの

落語では、笑わせて頂き、期待以上の感銘を毎日楽しませていただきました。

無事御満座をお迎えして、記念撮影を関係者の皆様とご一緒させて頂きました。有難い事と喜んでおります。椅子の片付けもして、ご褒美に売店のお野菜を頂き楽しかったねと、帰路につきました。高齢のご奉仕ですので、皆さんに心配して頂きましたが、お陰様で四日間の参拝の間も、毎日楽しく、その後も、体調順調で有難い事です。法要期間中、娘と孫が司会の大役を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。



慶讃法要 お出迎え



慶讃法要 お見送り

# 標語

二〇二二年度～  
二〇二三年度募集

なまんだぶ

いまここが私の生きる場所  
いまここが私の生きる道

なまんだぶなまんだぶ

赤穂北組 浄光寺 岡本美里

自力にてみつけ難くも他力にて  
見つかる四葉クローバー

佐用組 常德寺 藤木正助

オンラインや

信心どこへお念仏

網干組 善徳寺 山本正則

なんとなあ

私の為の南無阿彌陀佛

阪神東組 明徳寺 釋晴照

もっと法話を

聞きたかったと亡き弟

播磨東組 報恩寺 古川高精

『何時迄続くコロナ禍ぞ』

じっと我慢の【南無阿彌陀仏】

満天の夜空に輝く

南無阿彌陀佛

阪神南組 正恩寺 檜川恵一

卒寿の身み教え深くふりかえり

御恩よろこぶおまかせの日々

ありがたや

お慈悲に抱かれ無上の幸せ

神明組 光源寺 米谷陽子

南無阿彌陀仏をとனால்れば

穏やかな世の親子孫

出石組 西方寺 宮下美代子

朝夕の合掌

家族に感謝ごちそうさま

赤穂北組 教専寺 柴田孝一

年老いて ますますたのもし

お念仏 南無阿彌陀仏

網干組 龍源寺 松浦平

念仏は乾いた心に

染みる慈雨

赤穂北組 称念寺 石原美幸

照る日雲る日いろいろあれど

心晴れやか お念仏

網干組 龍源寺 松浦裕代

たのむ者を

たすけるおいわれ なんとなあ

阪神東組 明德寺 和田晴美

また称えてる

ナンマンガブ ナンマンガブツ

ナンマンガブツ ナンマンガー

ナンマンガブツ ナンマンガ

どこまで行っても ナンマンガー

何はともあれ ナンマンガ

神明組 光源寺 西本雅昭(明顕)

ようこそ ようこそ

念仏の声ひびく慶讃法要や

合掌の老いの我が手に

亡き母偲ぶ墓参り

春彼岸供えし花に

想い人追う朝風と

神戸湊組 行願寺 中西小夜子

おかげ様 朝は希望

夕べに感謝 南無阿弥陀仏

阪神東組 専正寺 西田孝

今は亡き御仏の声聞きたし

南無阿弥陀仏

阪神東組 明德寺 田口敦子

毎日の称名念仏は

感謝と私の生きる糧

姫路中組 法性寺 高部みゆき

聴く度に

「愚者」と気付くお聴聞

阿弥陀池

南無と沁み入る佛の声

赤穂北組 専称寺 本林宗興

穏やかなひと日暮らして

南無阿弥陀仏

朋友に会いたい気持ち

募る日々

本堂に

お聴聞し充つところ

久々の

別院お参り弾み居る

朋友に

久々会えて笑み零る

佐用組 法覚寺 黒崎文子



## 門徒推進員としての 新たな決意について

阪神東組 萩原 孝志

私がお寺様とご縁ができたのは、父が二〇一八年に亡くなり、葬儀をお勤め頂いた浄宗寺松蔭ご住職様との接点を持たせて頂いたことに始まります。

父が亡くなり、喪主を経験して、人生で初めて仏様と向き合うようになりました。私の両親は鹿児島から七十年以上前に大阪に出てきて、核家族で一人っ子長男として育った私は、仏壇に向かいお経を唱えるという習慣もなかったのですが、「ご縁」を頂き二〇一九年九月開始の「阪神東組第二十一期」の連続研修会に参加させて頂くことになりました。

父が亡くなり、退職を目前にし、自らの「老い」や「死」と向き合い、自らの人生をどのように終えるべきなのかを考えなければならぬ年齢に達したのではないかと思うようになったことがきっかけでした。

ただ、連研が軌道に乗り掛けた頃とコロナの感染拡大期と重なったため、長期の中断があり、Webにて

再開はしたものの、話し合い法座の進行が難しくなり、我々受講者の緊張感が欠如しているのが感じられるほどでした。

主催者側の先生方や門推の皆様方も大変だったと思いますが、何とか全課程を修了するまで粘り強く進行して頂いたことに心より感謝申し上げます。

修了式で受講者を代表して決意表明を述べさせて頂いた手前、自ら中央教修への参加をお願いして、門徒推進員として登録される運びとなりました。

ただ昨年、「古希」を迎えたにもかかわらず、未だに「むさぼり」「おろかさ」「いかり」の三毒の煩惱に振り回されています。

特に最近はいかりのコントロールが難しく、目の前のテレビで放映される「イスラエルとハマスの戦闘」や「ロシアのウクライナへの侵略」など、自らは何もできないにもかかわらず、テレビに対して毒を吐いている自分が情けなくなります。

このように無駄に歳を重ねただけのような私が、「連研」並びにそれに続く「中央教修」を通じて浄土真宗の「教義」、親鸞聖人の「み教え」

に触れた程度ではありますが、今後、年老いて、死を迎え入れる日まで生涯念佛者として以下の実践を行なっていくことを決意いたします。

①門徒推進員としての自覚を持つ。  
寺院、家庭、職場や地域などで日常活動に根ざした活動を積極的に展開します。

②できる限り身を慎み、言葉を慎んで、自らの在り方としては「少欲知足」、また他者に対しては、「和顔愛語」を目指して参ります。  
③阿弥陀如来の願いを自らの願いとし、阿弥陀如来のお心を自らの心のものさしとして、自覚と主体性を持つて歩んでいくことを誓います。

## ご縁

赤穂北組 本林 幸

不思議なことで、中国人の私は今、こうして「かけ橋」に発表する原稿を書いております。

十年ほど前に、夫と結婚して日本に来ました。初めてお寺参りしたときに不思議な光景で驚きました！お坊さんは髪の毛がありません？？？奥さんがいます？？？本当に僧侶ですか？という気持ちでお寺参りを続けました。そしてお聴聞を重ねるうちに欲深く、煩惱だらけで、愚かな、無力な「自分」に「そのままがいい」と阿弥陀様がおっしゃってますよと浄土真宗のみ教えにであいました。頼りにして、ほっとしております。改めて夫にであってよかったと思います。

ある日、であってよかった夫に連研に行けと言われて、渋々、連研行くことになりました。

知らず知らずのまま連研に行きました。連研スケジュール表に「話し合い法座」と書いてありました。知らない人と何を話したらいいかとずっと悩んでました。ところが、コロナ禍で「話し合い法座」が中止となり、ラッキーと思いましたが、今思うと残念でなりません…。一年半で終わる連研がコロナ禍で足掛け三年間かかりました。同じ班の方でもマスク姿しか知らないままでお別れしてしまいました。そしてコロナ禍があけて、またであってよかった夫に中央教修に行けと言われて、中央教修に行きました。

第一回目の班別「話し合い法話」は不思議な集まりの自己紹介から始まりました。地域は北海道から新潟県、三重県、大阪府、兵庫県、広島県、島根県、山口県、中国まで、そして年齢は三十代から七十代まで、性別も違って、職業もそれぞれ集まりです。不思議だと思いませんか？

最も印象に残っているのは「決意表明」でした。心臓が喉から飛び出そうくらい緊張しました。「決意表明」の後の「茶話会」で、緊張しましたね、

名前を言い忘れました、法名を言い忘れました、・・・と語り合い、大人の会話なのに、まるで小学生のように純粋で楽しかったです。そして講習が進んでるうちに、悩んでいた「話し合い法座」もいつの間にか楽しくなってきました。話し合うこと、聞き合うことで、人それぞれの意見を尊重することは大事なことだと学ばせていただきました。

「ご縁というものは不思議ですねと肌で感じました。ご縁があつて夫にであいい、浄土真宗にであいい、「そのままでいい」とおっしゃる阿弥陀様

の願いを聞く身にならせていただいて、門徒推進員にならせていただきました。

不思議なご縁を大事にし、「お聴聞」と「お念仏」を重ねることは阿弥陀様にせめての御恩報謝になることを「このままの自分」が念じております。 合掌

### 兵庫教区門徒推進員 連絡協議会 役員紹介

#### 副会長

赤穂北組 専稱寺 本林宗興  
◆何時もお念仏とお聴聞を

朝来組 如来寺 尾崎智恵  
◆お念仏の和を広げましょう

#### 会計

神崎組 正善寺 楠田光好  
◆浄土真宗の「み教え」を大切にしましょう

### 新会員紹介

会員番号、氏名、所属寺、中央教修での決意表明を紹介しています。敬称略。



七四二番  
上田喜美子  
279回 揖龍東組 善導寺  
◆お寺の法座に参加します。



七四三番  
花田 齋  
275回 赤穂北組 得乗寺

◆お寺と地域に微力ながら役に立ちたいと思います。



七四四番  
福本きよ子  
279回 赤穂北組 得乗寺

◆生かされていることを喜び一生懸命生きていくことを誓います。



七四五番  
萩原孝志(釋宏智)  
281回 阪神東組 浄宗寺

◆煩惱とは無縁の生涯念仏者として阿弥陀如来様の願いを自らの願いとし歩んでいくことを誓います。



七四六番  
原田瑞穂(釋笑穂)  
281回 揖龍東組 善導寺

◆私は心おだやかに、ご縁のある方々、新しくご縁をいただける方々と、よりそうことを心がけ共に歩んでまいります。



七四七番  
村尾富江  
281回 揖龍東組 善導寺

◆私は、お寺の行事に参加し、聴聞に励みます。



七四九番  
本林 幸  
283回 赤穂北組 専称寺

◆私はすこしでも仏さまのお慈悲の心をマネできるように歩んで行きたいと思います。

### 門推の日 参加者募集

期 日 毎月第一土曜日 10:00~12:00

会 場 神戸別院 3階会議室

特 記 13:30より神戸別院第一土曜日  
仏教講座に参加  
(7月、10月、11月、12月)

どなたでも参加OK。  
会員同士の交流を深めましょう。